SHIP HEALTHCARE

生命を守る人の環境づくり

シップヘルスケアホールディングス株式会社［東証プライム：3360］
サステナビリティレポート

2024

シップヘルスケアグループは、
「生命（いのち）を守る人の環境づくり」に、
これからも邁進していきます。

私たちが大切にしているグループ理念は、
Sincere（誠実な心）、Humanity（「情」の心）、Innovation（革新者の気概）、
PartnerSHIP（パートナーシップ精神）の頭文字SHIPを取った「SHIP」理念です。
グループミッションである「生命を守る人の環境づくり」を
グループが“ONE SHIP”となり、海を航海するように邁進してまいります。

SHIP HEALTHCARE

シップヘルスケアグループ

売上高：6,309 億円（2024 年 3 月期 連結）従業員数：16,830 名（2024 年 3 月末）

- シップヘルスケアホールディングス
- シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング
- グリーンホスピタルサプライ
- 日星調剤
- セイコーメディカル
- シップヘルスケアエステート
- グリーンライフ
- グリーンファーマシー
- 大阪先端画像センター
- グリーンエンジニアリング
- グリーンアニマル（千里桃山台動物病院）
- シップヘルスケアフード
- 北大阪地所
- サンライフ
- セントラルユニ
- エフエスユニ
- エフエスユニマネジメント
- シップヘルスケアファーマシー東日本
- ハートライフ
- アイネット・システムズ
- クオンシステム
- 山田医療照明
- ライトテック
- 酒井医療
- SMC
- グリーンライフ東日本
- 中嶋メディカルサプライ
- GREEN HOSPITAL MYANMAR
- オーラムメディカル
- シップヘルスケアエステート東日本
- 大阪重粒子線施設管理
- 西野医科器械
- 小西医療器
- メディカルロジスティクス
- 日本パナユーズ
- SHIP AICHI MEDICAL SERVICE
- 昭島国際法務 PFI
- ユーロメディテック
- オルガンメディカル
- I&C
- ジョイアップ
- 日本ネットワークサービス
- トム・メディック
- 中央
- キングラン
- キングラン・メディケア
- キングラン九州
- クリーンペア九州
- キングラン北海道
- インジニアス
- キングラン・ハウネスト
- キングラン関西
- キングランリニューアル
- EMS
- グランディック
- グラン・グルメ
- オールケアー
- エム・アイ・シー

経営理念

グループ理念

SHIP

Sincere（誠実な心） Humanity（「情」の心） Innovation（革新者の気概） PartnerSHIP（パートナーシップ精神）

グループミッション　生命を守る人の環境づくり

基本姿勢

至誠惻怛（しせいそくだつ）

「至誠惻怛」とは、幕末に備中松山藩の財政危機を救い、藩政改革を成し遂げた山田方谷が河井継之助に贈った言葉です。「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心を表し、この心を兼ね備えて生きることが人間としての生きる基本姿勢であり、当社グループの基本姿勢です。

「ONE SHIP」マークについて

SHIP HEALTHCARE

追い風を受け前進する帆を表したSのかたちは、
いかなる時でも目標を目指し
航海をつづける「SHIP」理念を表象しています。

「ONE SHIP」は、社会要請という強い風を受け、
ヘルスケアの未来という光を映しながら
社会の荒波を航海する一艘の船を表しており、
シップヘルスケアグループの結束を象徴しています。

目次

02 経営理念
03 私たちのあゆみ
04 事業の全体像
05 社長メッセージ
07 私たちが大切にしていること
08 価値創造図
09 特集 「SHIP」理念に基づく価値創造事例：
01 SHIP INTERNATIONAL HOSPITAL
02 大阪ソリューションセンター
10 03 川西市立総合医療センター
04 大阪重粒子線センター
11 重要課題（マテリアリティ）への取り組み
12 シップヘルスケアグループの重要課題（マテリアリティ）
13 地球環境の未来と共に
15 医療の未来と共に
17 地域の未来と共に
18 人財の未来と共に
19 組織の未来と共に
20 役員一覧
21 社外取締役メッセージ
22 会長メッセージ
23 企業情報

編集方針

シップヘルスケアグループは、グループミッション「生命を守る人の環境づくり」を胸に、人々が「より良く生きる（Well-Being）」ことができる持続可能な社会の実現に向けて、あらゆるステークホルダーの皆様との価値共創を大切にしています。本レポートは、サステナビリティへの考え方・取り組みを通じて当社グループの姿勢をより良くご理解いただき、皆様とのコミュニケーションを深めていくことを目指して作成しています。

私たちのあゆみ

医療機関を支えるために
“一歩先”を見据えて
挑戦し続けてきました。

事業ドメイン

グループ会社
（2024年4月1日現在）

65社

連結従業員数
（2024年3月31日現在）

16,830名

1992
株式会社シップコーポレーション（前身）
グリーンホスピタルサプライ株式会社設立

“生命を守る人の環境づくり”をミッションに
ヘルスケアのトータルプロデュース企業を目指して創業
・トータルパックプロデュース事業開始

1994
調剤薬局事業開始

1997
メディカルサプライ事業開始

2004
医療機関の
ニーズにトータル
で応える
ライフケア事業開始

2005
東証二部上場

2006
東証ディスクロージャー
新人賞受賞

2007
東証一部上場

2008
ハイ・サービス
日本300選
受賞

2009
グループの
総合力でさらなる
価値提供へ
SHIP HEALTHCARE
シップヘルスケアホールディングスへ

シップヘルスケアホールディングス株式会社設立
持株会社体制へ

2013
一般財団法人 Furukawa Medical & Welfare Foundation
古川医療福祉設備振興財団
・古川医療福祉設備振興財団設立
・大阪府立病院機構の
「重粒子線がん治療施設整備
運営事業民間事業者」に決定

2016
ノウハウを
海外へ
バングラデシュ・ダッカの
病院建設・運営に関する合弁事業契約

2017
中期経営計画「SHIP VISION 2020」発表

2018
多様化する
ヘルスケアニーズに
応える
大阪重粒子線センター開院

2021
次世代型医療材料物流倉庫
「大阪ソリューションセンター」
開設

2022
・東証プライム市場へ移行
・中期経営計画「SHIP VISION 2024」発表
・バングラデシュ・ダッカで
「SHIP INTERNATIONAL HOSPITAL」
グランドオープン

事業の全体像

トータルパックプロデュース事業（TPP）

国内外の地域中核病院や大学付属病院の新築・移転・増改築のニーズに対し、総合的なサービスの提供を通じて、地域医療のトータルソリューションを実現します。

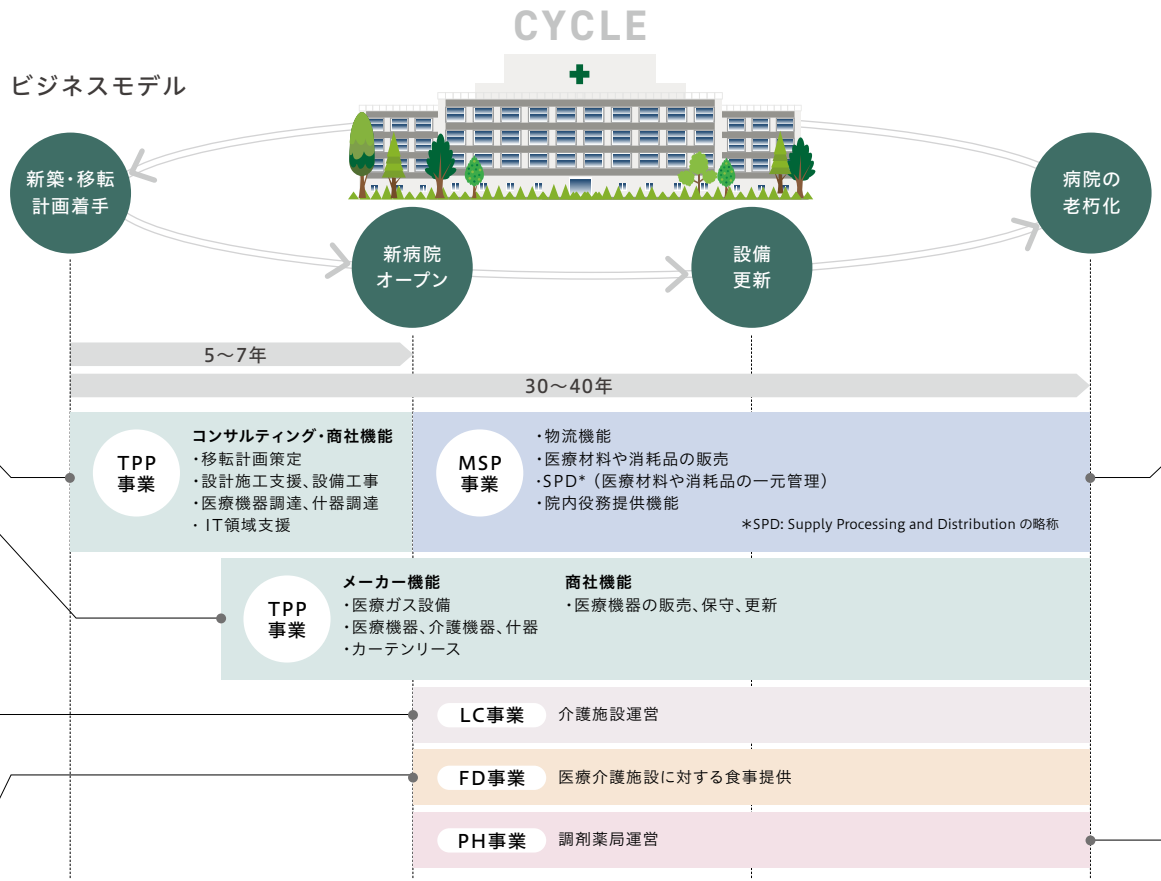
ライフケア事業（LC）

300床以上の大型施設から小規模多機能施設まで、全国約70施設を運営しています。

フード事業（FD）

医療介護施設などに対する食事提供サービスを行っております。

ビジネスモデル



メディカルサプライ事業（MSP）

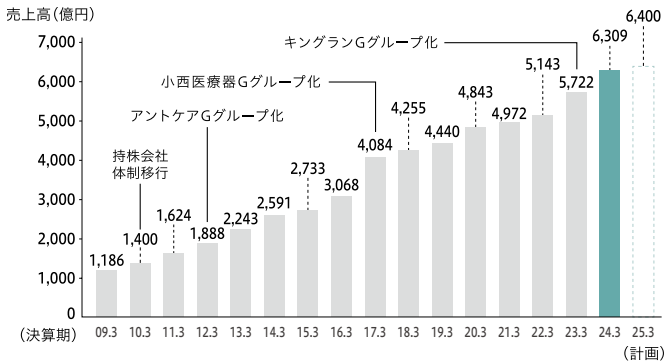
診療のために日々使用される診療材料・消耗品を販売しています。また、SPDシステムによる消耗品の一括管理・調達など、効率的な医療現場づくりに貢献しています。

調剤薬局事業（PH）

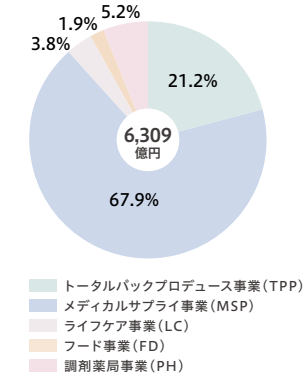
大型病院周辺をはじめ、門前調剤薬局や在宅調剤など日本全国で約130店舗の調剤薬局を展開しています。地域に根差した調剤薬局を目指しています。

成長と収益構造

連結売上高の推移（2009年3月期～）



事業の種類別セグメント売上高（2024年3月期）



社長メッセージ

常に理念に立ち返り
「生命を守る」ための事業活動に邁進

シップヘルスケアグループの社長に就任し、4年目を迎えました。

古川会長をはじめ、創業者の皆様の思いが込められた「SHIP」という揺るぎないグループ経営理念のもと、事業活動としての舵取りを進めてきました。多くの経営課題に直面するたびに、理念に立ち返ることの大切さを感じます。

── 超高齢化社会への突入と当社グループの事業環境

少子高齢化の進展により社会保障費がどんどん膨らむ一方で、労働力人口の大幅な減少で税収が減り、医療や介護に必要な資源の確保が難しくなっています。今後は、医療サービスに必要な人財の確保や、医療体制の維持も困難になります。

今後は「団塊の世代」と言われる方々が後期高齢者となり、より多くの医療サービスが必要になるため、医療サービスの需要はしばらく増えますが、その後の人口減少で、市場自体が縮小に向かうものと見ています。

厳しい事業環境の中でも、古川会長の言葉にもありますとおり、当社グループは、「生命を守る」ことから目を背けません。このような時代だからこそ、医療サービスに携わる人々の労働環境の整備に配慮しながら、サービスを提供することが求められています。

── 2024年３月期を振り返って

2024年３月期（前期）は、世界的な地政学的リスクの顕在化や、物価高など、不安定な経済状況が続きました。こうした中当社グループは、トータルパックプロデュース事業において、ミャンマーの政情不安などの影響を受けたものの、お客様のご要望に応えることで、売上高、営業利益ともに、創業以来最高の業績を達成しました。

この主な要因は３点あります。1点目はプロジェクト案件の堅調な進捗、2点目はメディカルサプライ事業の好調、そして３点目はキングラングループの売上貢献です。

営業利益の増益要因は、1つには、売上高同様、トータルパックプロデュース事業におけるプロジェクト案件、メーカー系が好調に推移したことがあります。

── 解決すべき足元の課題

「生命を守る」ための事業活動であることを踏まえサービスの質と量を、ともに拡大させていくことが、今後の大きな課題です。

近年は、医療サービス業界においても、DX化の波が押し寄せており、こうした流れに対応していくこともまた、「生命を守る」ための事業活動の充実につながると考えています。そのため、今後はIT関連のスキルやノウハウを持った人財の採用を積極化し、既存の人財についても、デジタル人財の育成を急ぎます。

── 中期経営計画「SHIP VISION 2024」の進捗

3か年の中期経営計画「SHIP VISION 2024」は、2025年3月期（今期）が最終年度となります。経営数値目標としては、最終年度となる2025年３月期において、売上高6,400億円、営業利益260億円を掲げておりました。ただし、足元での業績の好調もあり、これ以上の達成を目指す考えです。また営業利益については、現状を踏まえ、中期経営計画発表当初、ミャンマー事業として見込んでいた数字については、他の事業セグメントですべてカバーするよう注力します。

── ビジネスモデルの進化と今後の成長

これまで当社グループでは、トータルパックプロデュース事業での発想力を活かし、その他の事業を拡大させてきました。今後も引き続き、トータルパックプロデュース事業をグループの基幹として捉え、さらなる高収益事業に育てます。加えて、面展開を進めているメディカルサプライ事業を、グループの基幹であるトータルパックプロデュース事業につないでいくことが、今後の重要な課題です。課題の解決により、メディカルサプライ事業で得られる豊富な情報を起点

とした循環モデルを強化します。
　また今後は、グループ社員全員が、自分が携わる事業領域のみにこだわらず、グループ全体のポートフォリオを俯瞰し、横連携＆縦連携が行えるような企業風土を醸成します。
　「生命」を最優先で捉え、全力で取り組む姿勢はこれからも持つべきであり、時代に応じて社会が求めるサステナビリティ課題に対し、柔軟に対応していくことも重要です。そのバランスを考えて経営をすることは、社長としての重要な使命です。

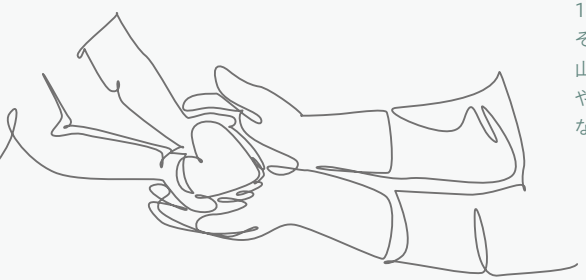
――「グループ理念」を拠り所にし、当社グループとしての存在感を発揮する

　人々がより良く生きることを支える、Well-Beingな社会を実現させていくには、医師の方々をはじめとする多くの医療従事者の方々、民間企業、行政など、さまざまなステークホルダーの方々との共創が必要です。今後は、こうした方々を上手に繋ぎあわせる「接着剤」のような役割を果たすべきで、そのためには、私たちのできることを増やし、仲間を増やすことが重要です。私たちは今後も、持ち前の「コンサルティング力」と「プロデュース力」で、経営資本の拡大を図りながら、グループ内シナジーの最大化を目指します。当社グループの3代目社長として、胸を張って次の世代にバトンを渡せるよう努力を重ねます。
　当社グループの今後の活躍に、どうぞご期待ください。

代表取締役社長
大橋　太

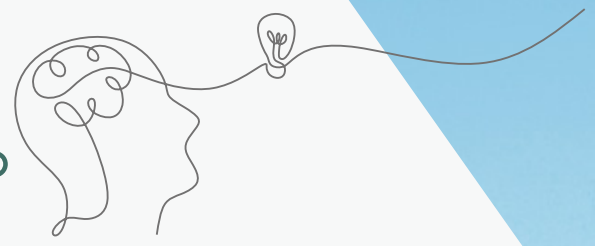
Our Values

まごころと いたみ悲しむ心。



1992年、創業にあたり目指した「理念をアイデンティティとする会社」。その基本姿勢となったのが、幕末、備中松山藩の藩政改革を主導した山田方谷が説く「至誠惻怛」です。まごころといたみ悲しむ心があれば、やさしくなれる。苦難に直面する人々の気持ちを汲み、手を携えて新たな解決策を導く。私たちの成長の源泉となる精神です。

NOとは言わず、まず考える“人間力”。



やらない理由を探すのは簡単。まずは徹底的に考え、本気で取り組むことからすべての可能性が開けます。NOをYESにすることを諦めなければ、きっと味方が現れる。皆で達成するための求心力たる人財へ、時間をかけて育てていきます。

私たちが大切にしていること

風を吹かせて、“旬”をつかむ。

「義」も「利」も現場にしか落ちていない——徹底した「現場第一主義」を貫いてきた私たち。日々新たな課題が生まれる、妥協の許されない現場だからこそ、自ら風を吹かせ、旬をつかむ者だけが生き残る。そのことを深く心に刻み、自己変革に挑戦し続けています。

信頼し、尊重する。理念を共にする。

昨今、当社グループにはますます多様なノウハウが求められています。しかし私たちは「理念の無い」M&Aは行いません。パートナーとして協力し合うこと、違いを尊重し、共鳴しつつ共に伸びていくことが、ミッション実現への近道だと信じているからです。

価値創造図

「SHIP」理念を根底に、
すべてのステークホルダーのパートナーとして
社会課題の解決に貢献していきます。

グループミッション
生命を守る人の環境づくり

Well-Being な社会の創出を目指す

提供価値

マテリアリティ（重要課題）

E
地球環境の未来と共に

S
医療の未来と共に
地域の未来と共に
人財の未来と共に

G
組織の未来と共に

私たちが今、取り組んでいること

- 医療の役割分担、地域連携機能強化
- アウトソースの推進
- ヘルスケアDX
- 最適な製品・サービスの提供

事業領域

コンサルティング力×プロデュース力

- メディカルサプライ事業
- 調剤薬局事業
- トータルパックプロデュース事業
- ライフケア事業
- フード事業

医療材料供給・物流管理へ展開
医療機関との関係・調達力活用
ノウハウ活用

グループ理念
SHIP
基本姿勢
至誠惻怛

地域医療への貢献
トータルパックプロデュース事業
地域中核病院をはじめとする医療機関の整備や地域包括ケアシステムの推進をサポートし、地域医療の強化に貢献しています。

医療現場の効率化
メディカルサプライ事業
医療従事者の方々が医療に集中できる環境をつくるため、医療現場の効率化を実現し、持続可能な医療体制の構築に貢献しています。

質の高い介護・食事サービス
ライフケア事業・フード事業
医療機関の協力のもと、病院づくりのノウハウを活かした介護施設を展開。
また、医療機関などへの食事サービスも展開しています。

地域密着型の薬局展開
調剤薬局事業
地域に根差した薬局を展開し、医療機関や他職種と密に連携することで地域包括ケアシステムを推進しています。

誰もに最良の医療を
海外事業
従来の既存5事業で培ったさまざまなノウハウを活かし国内外でヘルスケアサービスを展開。誰もが最良の医療を受けられるようグループの知恵を最大限に活用していきます。

特集

「SHIP」理念に基づく価値創造事例
Value creation based on SHIP philosophy

創業時から大切にしている「SHIP」理念は、今なお当社グループの事業活動の中で息づいています。ここでは「SHIP」理念を体現する4つの取り組みについてご紹介します。

case 01 バングラデシュの医療課題に挑む
SHIP INTERNATIONAL HOSPITAL（SIH）

当社グループでは、これまで培ってきたトータルパックプロデュースのスキルやノウハウを、海外の医療現場でも活かす取り組みを始めています。

2022年にバングラデシュの首都ダッカに開設したSIHは、当社グループが手掛ける海外病院運営の第1号案件です。著しい経済成長を遂げはじめたバングラデシュでは、がん、循環器・呼吸器疾患、糖尿病などの非感染性疾患が死亡要因の7割を占めるまでに深刻化しています。こうした事情も踏まえ、SIHでは血管性疾患と周産期医療、急性外傷といった領域にフォーカスして最新の設備と技術を導入。内科や外科、救急や産婦人科を含め、現在では16の診療科を揃えて地域医療を支えています。

医療サービスの向上はバングラデシュ政府が掲げる重要な政策であり、日本政府も医療の国際展開を国策として掲げています。こうした両国の思いを受け継ぐ形で、当社グループはバングラデシュ側のパートナー、国際協力機構（JICA）とともに、共同出資事業としてSIHの運営にあたっています。当社グループでは今後も、SIHでの取り組みを通じて、バングラデシュの人々の健康維持に貢献していく考えです。

case 02 次世代医療材料物流を担う
大阪ソリューションセンター（大阪 SC）

医療施設に対して診療材料・医療用消耗品を安定的かつ継続的に供給することは、当社グループの重要な使命です。多くの医療機関は、診療材料・医療用消耗品の発注や納品・在庫管理などの事務処理に少なからず負担を感じており、医療従事者の方々の業務時間を大きく割かざるを得ないケースも散見されます。この業務を効率化し、医療従事者の方々が医療に集中できる環境をつくるため、当社グループでは医療消耗品の安定供給・在庫管理・品質維持などの医療材料物流の課題に対し、SPDサービスを駆使して多角的な視点から解決する「スマートメディカルソリューション」を展開しています。

2021年に大阪府門真市に開設した大阪SCもその一つで、次世代型のSPDを提供するための先進的な医療材料の物流拠点です。パートナー企業との共同開発という形で、最先端の自動物流施設を備えた大阪SCには大きな可能性があります。RFIDタグを活用した医療材料管理は、将来的には医療材料のトレーサビリティの可能性を拡げることにもつながります。安心・安全な医療材料物流の最適解を求めて、大阪SCの進化はこれからも続きます。

case 03 地域に根差す医療サービスに力を尽くす
川西市立総合医療センター

兵庫県川西市に位置する川西市立総合医療センターは、地域の方々に良質でやさしい医療を届けることを目的として、2022年に開設された地域の基幹病院です。この地域には、もともと市立川西病院と協立病院という2つの総合病院がありました。他の医療機関とも連携を図りながら川西市域の中で医療完結率を向上させることが、地域のために不可欠であるとの考えから、この2病院を統合させ、新たな医療センターを設置するプロジェクトが地域主導で立ち上がりました。

当社グループは、計画から開院までの支援業務を受託し、プロジェクトの成功を支えました。当社グループではこれまで、医療機関の新築・移転・増改築などのニーズに対し、計画から開院に至るまでに必要なサービスを総合的に提供する「トータルパックプロデュース事業」を全国展開し、着実に実績をあげております。この新医療センターは、公的病院と民間病院を統合するという全国的にもめずらしいケースとなりましたが、これまで培った知見やノウハウをフルに活用し、無事オープンすることができました。当社グループはこれからも、良質でやさしい医療を提供するための支援サービスを通じて、地域に貢献していく考えです。

case 04 最先端のがん治療施設を支える
大阪重粒子線センター

大阪重粒子線センターは、全国で6番目、民間主導の民設・民営の重粒子線がん治療施設としては国内初の施設として誕生しました。2018年の開院・治療開始以来、国内外の多くの患者様の治療にあたり、2024年3月末までに、前立腺がんの患者様をはじめとして、延べ4,198人と多くの患者様の治療を行ってきた実績があります。「重粒子線」は粒子の質量が大きく、X線や陽子線など他の放射線治療に比べて体内の線量分布に優れています。重粒子線を使ったがん治療は、体へのダメージを最小限に抑えられるほか、照射による痛みも伴わないために入院も不要で、患者様のQOL維持にも優れているとも言われています。

重粒子線治療施設に関し、当社グループでは2013年に大阪府立病院機構の「重粒子線がん治療施設整備運営事業民間事業者」として指名されるなど、これまで重粒子線がん治療施設の開設や運営に関するノウハウを蓄積してきました。大阪重粒子線センターに関しても、その開設から日々の施設運営に至るまで、総合的なサービスを提供してきました。これからも、最先端のがん治療施設の運営支援を通じて、がんと闘う患者様の力になりたいと考えています。

重要課題（マテリアリティ）への取り組み

「生命を守る人の環境づくり」を全うすることで持続可能な社会の実現を目指します。

サステナビリティの基本的な考え方

シップヘルスケアグループは、「SHIP」理念及びグループミッションを根底にステークホルダーの皆様のパートナーとして、課題解決に向けた新たな価値を生み出します。

シップヘルスケアグループは、医療・保健・福祉・介護・サービスの分野で、イノベーターとして活躍し、多くの新しい価値を提供してきました。この成長を支えてきたものは、創業以来守り続けている「Your company」としての企業のあり方と、イノベーターとして絶えず「旬」を追い続けてきたことです。
今日、地球規模でのさまざまな社会課題が顕在化する中、当社グループは創業以来のビジネスモデルをさらに強化しながら、ESG・SDGsへの取り組みを積極的に進め、当社グループの持続的成長と社会の持続可能性に貢献してまいります。

シップヘルスケアグループとSDGs

シップヘルスケアグループは「SHIP」理念及び「至誠惻怛」の精神の下、SDGs目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」を基本姿勢とし、生命に関わるヘルスケア業界のリーディングカンパニーとして、目標3「すべての人に健康と福祉を」の目標達成に大きく貢献します。また、シップヘルスケアグループが「生命を守る人の環境づくり」を実践し、さまざまに展開する取り組みの中でその他のSDGsの目標にも貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

基本姿勢 → 中核目標

ステークホルダーとの価値共創

お客様・お取引先様

お取引に係る各種法令の遵守による公正な取引を徹底し、「SHIP」理念の下で誠実な事業活動を推進します。また、パートナー精神を忘れず、すべてのお客様・お取引先様と共に、新たな価値を共創します。

コミュニケーションの機会
- 日々の病院運営サポート、営業活動
- ヘルスケア業界の交流会、共同研究
- 医療関係学会、シンポジウム、展示会
- 調達方針説明会　など

地域社会・地方自治体

地方自治体や業界団体との協働によって地域環境の保護・保全、地域の活性化に取り組み、人々がより良く生きることができる「Well-Being」な社会を実現します。

コミュニケーションの機会
- 官民連携事業
- 社会貢献活動
- 地域イベントの実施
- 地域福祉への協力　など

グループ従業員

グループ理念・ミッションを全社員で共有し、ぶれない判断軸を通じて、透明性が高く風通しの良い社風を築きます。また、やりがいを持っていきいきと働ける職場環境の整備を推進し、変革を創出していきます。

コミュニケーションの機会
- グループ理念研修
- 各種人財育成研修
- 部署内での対話
- 目標管理制度　など

株主・投資家

株主・投資家の皆様への適時適切な情報開示に努め、建設的な対話を推進します。当社事業へのご理解と共感を深めていただくと同時に、社外からのご意見を真摯に受け止め事業活動に反映することで、さらなる企業価値の向上に努めます。

コミュニケーションの機会
- 株主総会
- インターネットを通じた情報発信
- 決算説明会
- 機関投資家との個別ミーティング
- IRイベントへの出展　など

シップヘルスケアグループの重要課題（マテリアリティ）

シップヘルスケアグループは、ヘルスケア分野のトータルプロデュース企業として、中長期的なグループの成長、企業価値の追求、持続可能な社会の実現に向けて取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を特定しました。

■ 特定プロセス

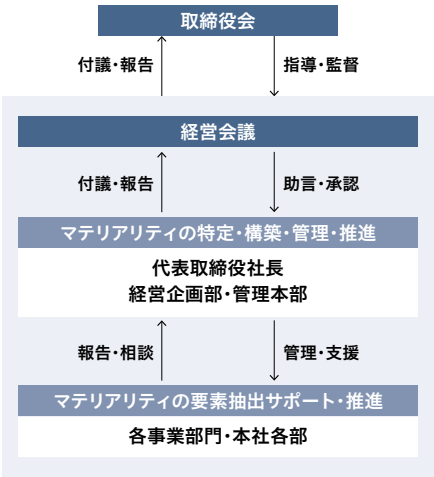
重要課題（マテリアリティ）の特定にあたっては、代表取締役社長の指示・監督の下、経営企画部・管理本部のメンバーによるプロジェクトチームを組成し、当社グループが取り組むべき社会課題を洗い出しました。

事業部門の管理職と課題を共有し、各課題の妥当性や、より優先度の高い項目について精査しました。

経営会議に報告の上、取締役会で議論し、重要課題（マテリアリティ）として特定しました。

サステナビリティ推進体制

経営会議の下、代表取締役社長をはじめ、経営企画部・管理本部のメンバーによるプロジェクトチームが中心となって管理・推進体制を構築しています。



■ 重要課題（マテリアリティ）一覧

2024 年 9 月版

	重要課題（マテリアリティ）		代表的な管理指標	関連するSDGs
E 環境	地球環境の未来と共に	廃棄物の削減	・SPD受託件数	3, 12, 13, 14, 15
		循環型モデルの推進	・段ボールリサイクル率	12, 13, 15
		資源の有効活用	・フードロスの削減量 ・入浴時の使用湯量	7, 12, 14, 15
S 社会	医療の未来と共に	地域包括ケアシステムの推進	・プロジェクト件数 ・在宅・施設対応患者数	3, 11
		医療アクセスの向上	・バングラデシュ「SHIP INTERNATIONAL HOSPITAL」の稼働状況	3, 4, 9, 10, 11, 13, 16, 17
		持続可能な医療提供体制の構築	・Compass Board導入件数 ・医療DXを通じた医療機関へのソリューション提供実績	3, 9
		医療機関のBCP・災害対策の強化	・BCP強化の内容	3, 11, 13, 16
		先端技術の普及・患者様のQOL向上	・大阪重粒子線センターの治療実績	3, 9, 11
	地域の未来と共に	地域社会との共生、市民の健康増進	・官民連携事業の実績 ・市民参加型イベントへの協賛実績・開催実績 ・ボランティア活動状況 ・教育施設などの包括管理業務実績	3, 11, 13, 15, 16
	人財の未来と共に	ダイバーシティ＆インクルージョン	・女性従業員比率 ・障がい者就労継続支援事業所数・利用者数 ・子育て支援制度の導入	8, 10, 16
		人財育成	・理念研修の実施実績 ・その他各種研修の実施実績	4, 5, 10
G ガバナンス	組織の未来と共に	プライム企業としての中長期的企業価値向上	・コーポレート・ガバナンス報告書による報告 ・内部統制・コンプライアンスの強化	16

Environment

地球環境の未来と共に

シップヘルスケアグループが事業活動を継続していくうえで、気候変動をはじめとする環境問題への対応は経営における重要な課題であると捉えています。私たちは事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組むと同時に、環境に配慮したサービスを展開することで、地球環境の未来と共に持続可能な社会の実現を目指してまいります。

注力アクションテーマ

- 廃棄物の削減
- 循環型モデルの推進
- 天然資源の節約

廃棄物の削減

「生命を守る人の環境づくり」のミッションの下、持続可能な医療提供体制を実現するため、メディカルサプライ事業では医療機関における医療材料管理を行うSPDシステムを提供しています。SPDシステムによる適正な在庫管理・供給により、医療現場や物流の効率化に貢献すると同時に、医療廃棄物の削減にも貢献しています。

SPDによる適正な材料管理

医療材料管理・供給のIT化により医療廃棄物削減へ貢献

医療機関で使用される大量の医療材料はそれぞれ使用頻度や使用期限が異なり、厳正な管理を必要とします。また、医療機関は常に最良の医療を提供するために余裕を持った在庫を確保することが多く、過剰在庫から出た使用期限切れの医療材料などの廃棄物は、病院経営を圧迫する課題であるとともに、環境にも負荷がかかります。

当社グループが展開するSPDシステムは、ITを活用した管理によって、適正な在庫管理・供給を実現し、廃棄の抑制にも寄与します。さらに、業界で初めてRFIDを活用したSPDを展開し、医療材料に貼付したタグで「いつ・どこで・誰が・誰に・何を・どの治療に使ったのか」のデータを紐づけることで、医療材料のトレーサビリティやサプライチェーンマネジメント（SCM）※の最適化も実現します。適時適切かつ効率的な医療材料供給を通して、環境にも配慮した医療提供体制の構築に貢献しています。

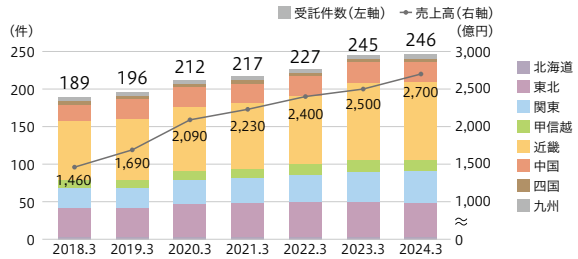
医療従事者の負担軽減・安定的な医療提供に貢献

医療従事者の皆様にとって、医療材料管理をはじめとした医療行為以外の多岐にわたる業務は、負担が大きいものです。慢性的な人手不足に対して具体的な改善策が求められる中、良質で持続可能な医療を提供するためには業務効率化が喫緊の課題です。当社グループのSPDサービスでは、医療従事者の皆様に代わりITを駆使した高付加価値な医療材料管理サービスを提供。正確かつ迅速な在庫管理を通じて医療現場を支援し、医療に集中できる環境を作り出しています。また、当社グループの医療材料保管庫は災害時の医療材料供給拠点としても機能し、医療のBCPにも貢献しています。

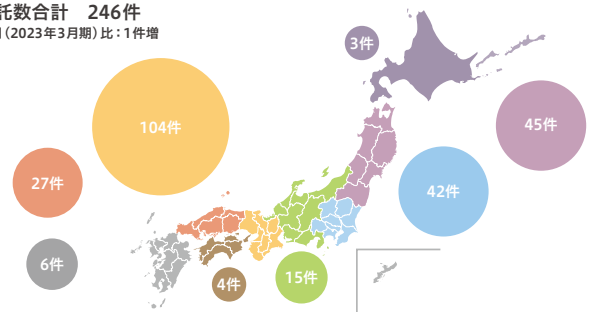
※SCM：自社内あるいは取引先との間で受発注や在庫、販売、物流などの情報を共有し、原材料や部材、製品の流通全体の最適化を図る管理手法。

KPI　SPD受託件数

全国246件・約 92,400床の医療機関へ診療材料の一括調達・管理を受託（2024年3月末）



受託数合計　246件
前期（2023年3月期）比：1件増



循環型モデルの推進

ヘルスケアのトータルプロデュース企業としてさまざまな事業を展開する中、私たちは多くの資源を利用しています。省エネルギーや廃棄物削減を通じてGHG排出量を低減させるとともに、梱包材料をはじめとする資源の再利用や物流プロセスの見直しによって、循環型モデルを構築していきます。

段ボールリサイクルの推進

メディカルサプライ事業では、日々、医療機関へ医療材料をお届けしており、その仕入・販売工程においては大量の廃棄段ボールが発生します。グループの主要なメディカルサプライ関連事業会社から生じる使用済段ボールだけでも1日あたり約6,000ケースにのぼり、その廃棄には多くのエネルギーリソースが必要となります。

そこで2022年より、一部のメディカルサプライ関連事業会社から廃棄される段ボールを紙袋に再生し、当社グループの営業担当者が用いる紙袋として活用する新たな取り組みを開始しました。これにより、資源循環を促すとともに、従来のポリプロピレン加工を施した紙袋よりも廃棄時のGHG排出量を大幅に削減することが可能になります。今後は、このモデルの当社グループ全体への拡大を目指し、環境負荷の低減に貢献する取り組みに注力していきます。

KPI	段ボールリサイクル（トライアル）
40kgの副資材を引き取り ⇒紙袋500枚（60g/枚=30kg）へ再利用	再生率75%
［今後の計画］ ・11,000kg/月の副資材を引き取り⇒再生8,000kg（再生率72%） ※小西医療器株式会社から取り組みをスタートし、今後拡大を検討	

メディカルサプライ事業から出る廃棄段ボール

再生紙でつくった紙袋

VOICE

医療材料物流全体で環境負荷低減・コスト削減を進め、好循環を生み出すために

メディカルサプライ事業部門 副部門長　島田 正司

SPD事業という医療物流全般を担う業務においては、箱詰めされた医療材料の梱包を解き、医療現場で1日に消費される量を目安にパック化して（バラの状態にして）供給します。そのため、倉庫では段ボール・化粧箱・袋などの副資材が大量のゴミとして発生します。

卸業者は副資材込みの価格で医療材料を購入し、同様に医療機関も、副資材込みの価格で単価契約などを結び、製品納入後に残る副資材は、ゴミ回収業者にお金を払って引き取ってもらっているのが現状です。

今の荷姿を検討した時代の考え方と、現在の物流網や院内物流のあり方にミスマッチが生じている可能性があります。一部、過剰包装に陥っている側面もあるかもしれません。国際輸送の梱包基準なども踏まえると、段ボールをダブルからシングルカートンにするといった抜本的な改革は難しいかもしれませんが、内袋に使用している梱包用ビニールも含めて厚みを薄くするなど、梱包素材の削減や仕様改善への工夫などの議論を活性化させていくべきと考えています。

そこで当社グループでは、まずは自分たちにできることから着手するべく、段ボールの再利用に挑戦しています。これからも、あらゆるステークホルダーや地球環境にとって好循環が生まれる仕組みを検討していきます。

天然資源の節約

医療・介護環境がめまぐるしく変動する中、入浴サービスのあり方も大きく変化しています。当社グループでは多様化するご施設それぞれに最適な浴室環境をご提案するとともに、天然資源の節約にも貢献しております。

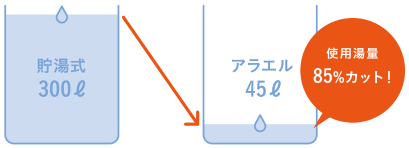
アラエルによる湯量削減の実現

お湯を溜めないシャワー入浴装置のアラエルは、従来の当社個浴タイプの貯湯式浴槽と比べて、85%の湯量削減を実現しています。また、「おまかせ洗身モード」を搭載しており、ボタン一つで全身を洗えます。少ない湯量でしっかりと身体を洗えるのもアラエルの大きな特長で、入浴介助の時間短縮と、介護負担の軽減が期待できます。介助する方にも、介助される方にも快適で衛生的なバスタイムを提供し、発売以来、多くのご施設から好評をいただいています。

シャワー入浴装置 シャワーポッド アラエル

全身シャワーイメージ

KPI	入浴時の使用湯量
1名が3分間入浴した場合の使用湯量を	85%削減



※当社個浴タイプと比較
※実使用湯量は入浴時間とご利用者の体格により変動

衛生的で健康な暮らしには、良質な水資源が欠かせません。一般的に水資源が豊富だと認識されている日本でも、災害や天候不順、気候変動などによって水の供給が不安定になることも考えられます。当社グループは、限られた湯量でも快適に入浴できる設備の提供を通じて、豊かな水資源の保全にも配慮した浴室環境づくりに貢献していきます。

Society

医療の未来と共に

少子高齢化による人手不足と医療費の増大、感染症などさまざまな課題が顕在化し、医療のあり方が見直されています。私たちシップヘルスケアグループは、「生命を守る人の環境づくり」を追求することで医療の未来と共に持続可能な社会の実現へ貢献します。

注力アクションテーマ

- 地域包括ケアシステムの推進
- 地域医療の充実
- 持続可能な医療提供体制の構築
- 医療機関のBCP・災害対策の強化

地域包括ケアシステムの推進

少子高齢化が急速に進む日本では、医療・介護需要が増加し続ける見通しです。誰もが最良の医療を受けられる環境づくりのため、多様なリソースとノウハウを活かし、地域のより良いヘルスケアシステム構築に貢献します。

地域医療強化のための再編統合プロジェクトへの協力

当社グループは30年以上にわたり、全国の医療機関の新築・リモデルのコンサルティングから開業後のサポートまで一貫して「生命を守る人の環境づくり」を続けてきました。そこで培ったノウハウを活かして、地域の医療機関・介護施設や薬局、その他暮らしを支えるさまざまなステークホルダーと連携し、地域包括ケアシステムを推進していくことが、私たちの使命だと考えています。これは一つの成功事例で完結するものではなく、地域の特性に寄り添いながら、中長期的な視点で柔軟に対応していくべきものです。当社グループはこれまで、さまざまな地域で医療機関の再編統合プロジェクトに携わってきました。これらの実績を活かし、持続可能かつ強い地域医療を構築するため、引き続きグループの総力を挙げて社会のニーズに応えてまいります。

KPI	TPPプロジェクト件数	
2022.3	2023.3	2024.3
35件	42件	39件

地域医療強化に向けた長期・大型プロジェクトの事例

岡山県 津山中央病院様

1999年に本館を新築移転して以来、中四国地方初となるがん陽子線治療センター設置や最新鋭の新手術室の増築など、20年以上にわたって病院づくりを支援しています。

地域医療の充実

シップヘルスケアグループの総力を結集したサービスとソリューションで、「生命を守る人の環境づくり」に邁進し、誰もが最良の医療を受けられる環境づくりに貢献します。

医療機関と大学医学部の連携により専門性の高い画像診断を支援

新潟県長岡市の医療法人メディカルビットバレーが運営するエールホームクリニック長岡（2023年10月オープン）は、高度な医療機能を持つ病院と、かかりつけ医として地域に寄り添う個人病院の真ん中に位置し、両者をつなぐ仕組みとして地域医療の活性化に寄与しています。

同クリニックでは、当社グループから導入したCTを地域の医療機関で共同利用しています。撮影された画像は当社グループの大阪先端画像センターを介して、大阪大学医学部放射線医学教室に属する画像診断の専門医の先生方によって読影いただいています。導入費用が高額なためCTを備えている医療機関は多くありませんが、本取り組みにより、長岡地域の患者様も地元に居ながらにして専門性の高い画像診断をお受けいただくことが可能になりました。

メディカルビットバレーの取り組みが、地域医療の現場に広がっていくよう、引き続き当社グループでも支援してまいります。

エールホームクリニック長岡（新潟県）

持続可能な医療提供体制の構築

医療の質と効率性を両立した環境の整備は喫緊の課題であり、当社グループが力を尽くすべき取り組みです。地域包括ケアシステムや在宅医療を含む柔軟な医療提供体制の構築、医療従事者の皆様の働き方改革、感染症対策の徹底、社会保障費や医療資源の効率活用など、多岐にわたる課題に注力しています。

物流データ、手術室データから病院経営を支援

当社グループの株式会社エフエスユニマネジメントが開発したCompass Boardは、医療材料物流を限りなく「見える化」するツールです。使用された医療材料、診療科ごとの材料費など、院内の物流データを可視化することができます。導入病院様からは「従来は報告を受けてもどこに課題があり、どのように改善すれば良いのかを把握することが難しい状態であったが、病院の担当者がデータに直接アクセス可能なため、部署や物品別などで消費や在庫状況の集計、分析ができるようになった」とのお声をいただくようになりました。

2024年3月末時点の導入件数は88件であり、毎年着実に導入件数を増やし続けています。

今後は、他病院様との比較ができる機能を組み込んでいきます。少子高齢化に伴う国民医療費の増大により、病院経営は今、非常に厳しい状況に置かれています。経費の中で多くの割合を占める材料費を適正にコントロールすることは、病院経営において重要課題です。Compass Boardの普及により医療機関の経営課題解決に寄与してまいります。

また、手術室やカテーテル室など、それぞれの特徴に合わせた最適な収納環境を実現するため、RFIDタグによる専用キャビネットや医療情報システムとリアルタイムに連携したキャビネット管理システムを導入。各種収納物品をより正確に、かつ適正に管理しています。キャビネットにはRFIDセンサーを内蔵し、キャビネットから物品を取り出すだけで出庫を捉え、使途不明品の把握、棚卸などの業務負担を軽減しています。

さらに、当社グループでは、安全・快適で効率的な手術室を目指して、手術室の見えていない課題の「見える化」を支援しています。センサーやIoTデバイスを駆使することで、手術室に関する設備・環境・オペレーションのデータ収集・分析を行い、改善提案につなげます。情報の可視化だけでなく、アラート設定や空調制御も可能です。今後もDXを切り口にしたソリューションで、病院の経営支援、業務支援を行い、持続可能な医療提供体制の構築に寄与してまいります。

Compass Board操作画面

医療機関の BCP・災害対策の強化

医療が最も必要とされる時、人々の生命を守る現場をいかに支え、医療を止めない環境をつくることができるか。「生命を守る人の環境づくり」を実践する当社グループは、医療機関のBCP構築を重要な使命と認識しています。

能登半島地震　災害救援活動　事例１

医療ガス設備国内トップシェアを誇る当社グループの株式会社セントラルユニでは、非常時でも病院の医療体制を守るため、これまでの病院づくりプロジェクトの中でメディカルサプライシステムに対するさまざまな施策を提案してきました。2024年能登半島地震では、現地代理店と協力し被災状況の確認・病院運用継続支援を迅速に行いました。地震の規模が大きく多数の病院で建物の損傷や不同沈下による被害がありましたが、医療ガス配管の銅管で施工されている部分については、配管の断裂はあまり確認されませんでした。供給システムの一部では、運転時に水の供給を必要とする水封式吸引ポンプが断水による影響を受けましたが、手動で水を補給する措置により運用を継続しました。引き続き当社グループでは、断水の影響を受けないオイル式吸引ポンプの提案など、災害時でも医療提供体制が継続できるよう事業を推進してまいります。

能登半島地震　災害救援活動　事例２

当社グループの株式会社サンライフでは、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会に対し、富山県氷見市における災害救援活動への支援として、第一種衛生管理者の資格を持つ社員派遣に加え、施設内での感染予防対策としてグループPB商品（例SHIPサージカルマスク）を提供しました。

Society

地域の未来と共に

シップヘルスケアグループは、創業以来、ボランティア清掃活動や公共設備の維持管理など地域活動に力を入れてきました。企業市民として、地域への感謝を忘れず地域創生に資する取り組みを続けてまいります。

注力アクションテーマ

地域社会との共生、市民の健康増進

VOICE

公共空間づくりを通じて地域社会に「恩返し」をする

グリーンホスピタルサプライ株式会社 Well-Being 推進事業部 白石 敦司

私たちの社会貢献は、病院づくりをはじめとしたヘルスケア領域の取り組みだけではありません。事業拠点の周辺地域への「恩返し」として、自治体などと連携しながら、公園や学校の魅力向上にも貢献しています。

地域の人々への思いを込めた、Well-Beingな公共空間づくりもまた、「生命を守る人の環境づくり」というシップヘルスケアのグループミッションにつながります。地域の人々が健康で幸せに暮らせるように、これからも力を尽くします。

地域社会との共生、市民の健康増進

献血啓発活動へ協力

当社グループは、献血推進に貢献するべく、大阪府赤十字血液センター様とガンバ大阪様とともに「いのちのパスプロジェクト」に賛同し、大阪府下の小中学校を対象にポスターを制作・配布するなど啓発活動を行っています。

社内献血風景

少子高齢化の影響などにより、献血者数が年々減少し、特に若年層の献血者は減少傾向にあります。当グループはこの「いのちのパスプロジェクト」への協力を通じて、当社のSDGs活動における中核目標である「3 すべての人に健康と福祉を」に貢献し、「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の姿勢を大切に、今後も献血をより身近に感じていただき、より多くの方にご協力いただけるよう啓発活動を行ってまいります。

「いのちのパスプロジェクト」とは

病気の治療や手術で輸血が必要な患者様へ「いのちのパス」を届けたい、献血の輪を拡げることで「誰かのために」を考える人を増やしたい。そんな想いを起点に大阪府赤十字血液センター様を中心に在阪のスポーツチームがパスをつなげるようなデザインのポスターを制作し、行っている啓発活動です。

吹田市立学校・保育施設などの包括管理業務受託

当社グループは、吹田市の小・中学校、保育園等合計84施設での施設管理業務などを2023年10月から5年間にわたり受託しました。当社グループの警備・給食や施設管理などのノウハウを活かし、地域との連携・共創をしながら人々のWell-Beingへ貢献してまいります。

官民連携、地域に根差した事業の推進

当社グループの本社がある大阪府吹田市は、千里丘陵の豊かな自然や文化施設のほか、医療機関や大学などの学術研究環境、都心部にほど近い便利な生活環境が整い、自然と文化が共生する街として知られます。さらに魅力溢れる地域をつくるため、吹田市初のPark-PFI事業※として、江坂公園（吹田市立江坂図書館含む）と桃山公園の２つの公園の魅力向上事業を受託しました。2023年4月にリニューアルし、新しい図書館やカフェなど民間企業の機微を活かしながら地域の活性化につながる活動が本格始動しました。健やかでにぎわいのあるより良い街づくりを推進し、Well-Beingの実現を目指していきます。

※Park-PFI：2017年の都市公園法の改正で創設された、民間事業者による公共還元型の収益施設の公募設置管理制度のこと。

リニューアル１周年
イベントポスター

桃山公園（新設したパークセンター）

江坂公園

パラスポーツの支援

当社グループの酒井医療株式会社では、日本ボッチャ協会をはじめ、さまざまなパラスポーツ団体のオフィシャルサプライヤーとして選手のコンディショニングやトレーニングに使用する機器の提供、動作解析の計測サポートなどの支援を行っています。また、社員によるパラスポーツの体験や応援、ボランティア参加を通じて共生社会の実現を目指していきます。

Society

人財の未来と共に

企業の成長を支えるものはそこで働く「人」にほかなりません。互いをパートナーとして尊重し合い、切磋琢磨し合う「自律的な人財」を組織として育みます。多様な価値観と個の力を活かして協働し、新たな価値を創出できる人財の育成に注力しています。

注力アクションテーマ

ダイバーシティ＆インクルージョン

人財育成

VOICE

多様な背景を持つ社員が生き生きと働ける組織へ

人財開発本部
採用企画部・育成企画部
吉田 恵子

若手社員を中心に採用・育成・フォローを担当しています。これまでの経験から、自身の成功体験や価値観だけで人や物ごとを見ていては、人も事業も成長の幅が狭まってしまうと感じています。そうならないために、多様な考え方・立場・経験を持つ「一人ひとり」が生き生きと働ける環境を築いていきたいです。まだ少数派である女性管理職として、「女性活躍」を皮切りに、将来的には介護や自身の治療との両立が必要な社員、障がい・国籍等でさまざまな背景を持つ社員が決して「特別」ではない組織づくりを目指しています。

ダイバーシティ＆インクルージョン

企業の持続的成長を実現する上で、個人の背景を尊重し、多様な意見を採り入れることは重要な要素です。グループ全社員で共有する「SHIP」理念の下、さまざまな人財が活躍できる機会の提供を大切にしています。

女性活躍の推進

ダイバーシティを推進することは企業価値の向上に資すると認識しています。当社グループの5つの事業では多くの女性が活躍しており、2024年3月末の女性従業員比率は約60%となっています。従業員の自律的な成長をサポートしつつ、将来的には女性管理職比率をさらに高め、経営の意思決定への参画を推進していきます。

KPI	女性従業員比率
2024年3月末	約60%

障がい者就労継続支援事業

障がいのある方への一般就労支援事業として、野菜の水耕栽培を展開する就労継続支援B型事業所「グリーンファーム」を4施設運営しています。栽培から販売までの一連の業務を手掛け、収益を得ながら事業を続ける持続可能な自立支援モデルを構築するとともに、一般消費者のエシカル消費への理解や地産地消の促進、地域産業の振興にも貢献しています。

KPI	支援事業所数／利用者数
2024年3月末 全国4事業所	110名

子育て支援制度の導入

働く社員一人ひとりを守ることを第一義に『安全で安心して働ける職場環境』の創出を目指しています。2021年度より、子供1人に対して、出産時や入学時に発生する一時的な費用負担を軽減するために一時金を支給する子育て支援制度の導入を開始しました。

人財育成

「SHIP」理念を核とした人財育成を継続して行っています。社員一人ひとりが普遍的な倫理観や人間力を身に付け、新しい価値創出へのモチベーションを高めることで、より「変化に強い集団」を目指します。

理念研修の実施

「SHIP」理念を浸透して高い志を共有するため、グループのあゆみを学ぶ理念研修の内容を2021年度に更新し、全グループで実施しています。新入社員、キャリア採用者は入社時に必ず受講しているほか、全社員向け・階層別などグループ会社ごとに独自の研修の場を設け、これまでに2,200名以上が受講しています。

KPI	理念研修の実施実績	
	2023.3	2024.3
	45回/750名	27回/787名

次世代経営者研修の実施

次世代の経営人財候補と目されるグループ各社の人財を対象として、その視野・視座・視点を現場のリーダーレベルではなく、経営者と対等なレベルにまで引き上げることを目的とし、次世代経営者研修を実施。これまで6年間で295名が受講しています。

VOICE

ライフステージを問わず管理職に挑戦できる仕組みを

グリーンファーマシー株式会社
人事部 鮎川 希

薬剤師および医療事務の採用・配置・評価、人事制度の設計など“ヒト”に関わる業務に携わっています。現在、当社の女性管理職比率は56.3%となっており、中には子育てと仕事を両立している社員もいます。今後はさらに、ライフステージの変化にかかわらず、能力や情熱がある社員が「管理職」という立場に魅力を感じ、チャレンジしていきたいと思えるような会社の文化・風土・仕組みづくりが必要だと考えています。

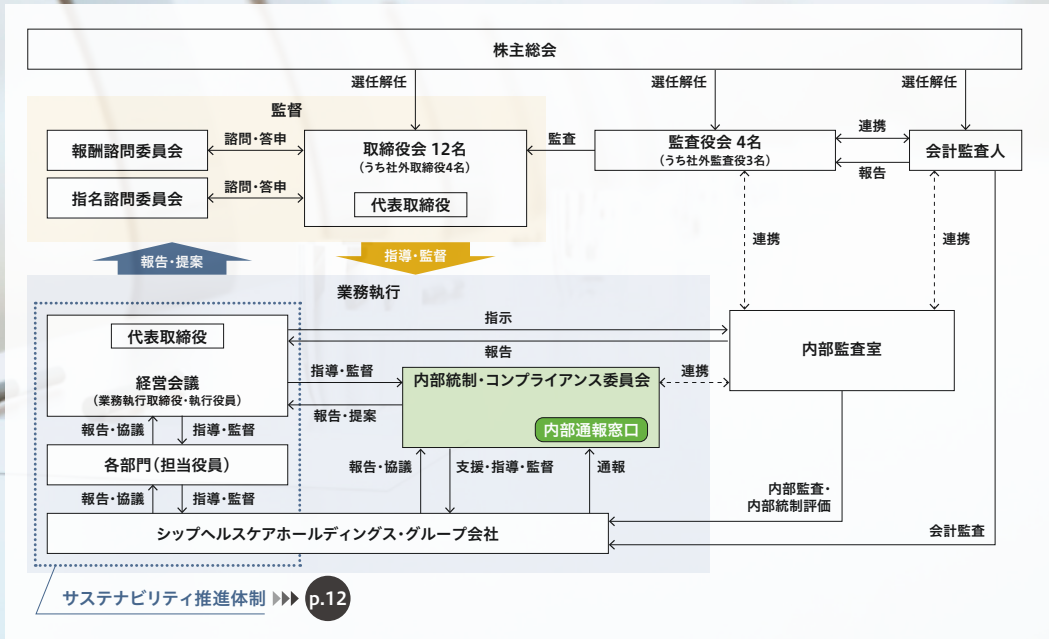
Governance

組織の未来と共に

シップヘルスケアグループがこの先も社会の持続可能性に貢献する存在であり続けるためには、グループ経営の要となるコーポレート・ガバナンスの強化が重要な課題であると考えています。「SHIP」理念に基づき、高い倫理観と責任感をもって行動し、さらなる企業成長を通じて企業価値の向上を図ることで、組織の未来と共に持続可能な社会を実現してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制（2024年3月31日時点）

社外取締役が取締役の1/3を構成する取締役会の監督の下、代表取締役社長を委員長とする「内部統制・コンプライアンス委員会」を経営会議の直下に設置し、グループ全体のガバナンス向上を推進しています。



サステナビリティ推進体制 ▶▶▶ p.12

プライム企業としての中長期的企業価値向上

コーポレート・ガバナンスコードへの対応

持続的な成長を通じた中長期的な企業価値向上の実現に向け、コーポレート・ガバナンスコードに照らして定期的な見直し・強化を図っています。コンプライアンス及びリスクマネジメント体制の整備に加え、社内外の多様なステークホルダーとの建設的な対話、人権の尊重など、当社グループを取り巻く事業環境の要請に応え、社会的責任を果たすべく取り組んでいます。

グループ理念である「SHIP」は、『誠実な心と「情」の心を大切にし、真摯な革新者としての気概をもち、企業を取り巻くステークホルダーと共に社会に貢献すること』を意味しており、高い倫理観と責任感を持って企業価値向上に努める企業風土の拠り所となっています。経営陣・グループ全社員が「SHIP」理念と「企業行動基準」に則った行動を実践し、その取り組み姿勢に対して評価する仕組みを導入することで、グループガバナンスのさらなる向上を図っています。

内部統制・コンプライアンスの強化

「生命を守る人の環境づくり」というグループミッションのもと、生命に関わる社会的責務を担う企業集団として、内部統制及びコンプライアンスの強化は最も重要な経営課題であると認識しています。

内部統制・コンプライアンス委員会では、グループ各社の内部統制・コンプライアンスに係る実態把握に加え、ハラスメントの防止や公正な取引の推進、各種業法の遵守などを徹底しています。グループ共通の課題を「企業行動基準」に反映するなど、コンプライアンス意識の醸成に取り組むことで、レジリエントな組織づくりを推進しています。

役員一覧

※2024年6月27日現在

スキルマトリクス

番号		01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
役職		代表取締役会長	代表取締役副会長 MSP事業部門長	代表取締役副会長 TPP事業部門長 兼 海外事業部門長	代表取締役社長 経営企画部長	専務取締役 秘書室長	常務取締役 営業戦略本部長 兼 FD事業部門長	取締役	取締役 管理本部長	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外取締役	常勤監査役	社外監査役	社外監査役	社外監査役
氏名		古川 國久	小西 賢三	小川 宏隆	大橋 太	横山 裕司	海野 眞史	島田 正司	安田 芳郎	佐野 精一郎	今別府 敏雄	伊藤 文代	西尾 信也	戸田 成重	佐野 信行	南 浩一	水島 藤一郎
当社が特に期待する分野（最大3つ）	企業経営	●	●	●	●					●			●		●	●	●
	業界知見・医療政策	●	●	●	●	●	●	●			●	●		●			
	営業・マーケティング	●	●				●	●						●			
	財務・会計			●			●		●				●		●	●	●
	IT・テクノロジー				●			●	●								
	人事・人財開発					●				●		●					
	法務・リスク管理・コンプライアンス					●			●		●		●	●	●	●	●

社外取締役メッセージ

社外取締役
佐野 精一郎

2007年6月 三洋電機株式会社代表取締役社長、2011年4月 パナソニック株式会社（現 パナソニックホールディングス株式会社）専務役員、2016年6月 同社顧問、2017年6月 当社取締役（現任）

当社の社外取締役として8年目を迎えます。当社の取締役会は、社外取締役がとても発言しやすい環境にあり、各議案についても事前に十分な情報共有がなされています。当社のガバナンス面での重要ポイントは、連結子会社の状況把握にあります。現状は、子会社のコンプライアンス上の課題まで、つぶさに報告されており、対応策までも論じられる点は評価できます。ただ今後は、それぞれ事業領域も異なる連結子会社・孫会社に対して、どこまでガバナンスを利かせるかという点について、議論が必要になるものと思われます。「連結売上高１兆円」を目指す企業集団であることも表明しており、成長に向けた積極的な姿勢も評価できます。江坂公園の魅力向上事業など、新規事業の拡大にも期待しています。今後は全社的な連携のもと、人財の確保・育成にも力を注ぎ、さらなる成長を目指してほしいと思います。

社外取締役
今別府 敏雄

2013年7月 厚生労働省医薬食品局長、2014年7月 厚生労働省政策統括官、2019年6月 当社取締役（現任）

当社の取締役会においては、医療行政や危機管理に永年携わった経験を踏まえ、短期の経営効率にとどまらない中長期の視座を提示することを心掛けた発言に努めています。また、将来に禍根を残しかねないような組織運営の疑義があれば、忌憚なく指摘することを心掛けています。取締役会では、いつも非常に熱心な議論が展開されています。また危急の議案があれば、極めて迅速に臨時取締役会が招集される点も、高く評価しています。コロナ禍での対応についても、極めて大胆かつ的確に対応できていたと思います。当社グループは、自社の強みを発揮しながら、今後も順調に成長を続けるものと見ていますが、創業世代から次世代に経営のバトンが渡される場合でも、組織の硬直化を起こすことなく、風通しの良い会社であり続けてほしいと願っています。

社外取締役
伊藤 文代

2008年4月 厚生労働省医政局国立病院課看護専門官、2016年4月 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター看護部長、2019年4月 洛和会本部採用教育課部長、同年6月 当社取締役（現任）

当社の取締役会では、病院での看護・医療の仕事の経験や、医療行政に携わった経験と知見を踏まえて、当社のお客様にとっての価値が何かという視点を重視し、また当社が大切にする「SHIP」理念を踏まえて発言をするように心掛けています。取締役会に付議される議案についても、「SHIP」理念に基づく経営目標や戦略が事業の現場までしっかり落とし込まれていることには敬服しています。リスク管理の面からは、災害対応、感染対策、従業員の不測事態といったことに加え、今後はカスタマーハラスメントにも十分に気を配る必要があります。これからも、揺るぎない「SHIP」理念のもと、お客様の価値を重んじながら製品・サービスの品質の改善に取り組み、新しい商品やサービスを生み出し続けることに期待しています。

社外取締役
西尾 信也

2016年4月 大和証券株式会社代表取締役副社長、2018年4月 株式会社大和インベストメント・マネジメント代表取締役社長、2021年4月 大和企業投資株式会社常勤顧問、同年6月 当社取締役（現任）

証券会社での経験と知見を活かし、取締役会では、特に金融商品取引法の主旨に照らした助言や、当社に対するレピュテーションの観点なども踏まえ、あるべき方向性について意見具申するよう心掛けています。取締役会に付議される議案は、いずれも執行サイドで十分に議論が尽くされ、論点が整理されているため、審議をスムーズに行うことができます。また各部門の責任体制も明確で、内部統制がうまく働いている点も評価しています。一方で、取締役会の運営に関し、資料の配布が直前になることがある点は少し気になっており、今後の改善に期待します。当社は、M&Aを通じて事業を拡大させていくビジネスモデルであるがゆえに、グループ企業に対する「SHIP」理念の浸透が重要な鍵を握ります。今後は、グループ全体の意思疎通が円滑に進む組織づくりに力を注いでほしいと思います。

会長メッセージ

人々がより良く生きるために、これからも至誠を貫く

「生命」の大切さに思いを寄せること— シップヘルスケアグループの経営において、私が最も大切にしていることが、ここにあります。幼い頃に両親を亡くしたこともあり、「生命」に対する思いは人一倍強いのかもしれません。私たちはこれまで、かけがえのない「生命」を守るための仕事と向き合ってきました。それは、これからも変わることはありません。

「SHIP」という理念は創業当時、どのような会社にしたいか、仲間と夜な夜な議論して出てきた言葉です。Sincere（誠実な心）、Humanity（「情」の心）、Innovation（革新者の気概）、PartnerSHIP（パートナーシップ精神）の頭文字であり、荒波にも怯むことなく漕ぎ出していく船（SHIP）の意味にも通じます。幼い頃、親から学んだ山田方谷の「至誠惻怛」の精神もまた私の信念であり、この理念の底流に流れています。

私はこれまで、迷いのある時は、常にこの「信念に基づく理念」に立ち返り、企業としての判断に役立ててきました。もちろん、私一人でできることは限られます。「仲間」とともに難局を乗り切ることの大切さも、身に沁みて感じています。

60年間、私は日本の医療業界に身を置き、その動きをつぶさに捉えてきました。このように長期にわたり、自分の目で医療の移り変わりを見てきたという人間は、そう多くはありません。この振り返りができることは、とても幸せです。医療を取り巻く環境は60年で大きく変わりました。技術は大きく進化した一方で、多くの過ちもあったと思います。日本では少子高齢化が加速し、それはこれからも続いていきます。次の世代をより良くするために、子どもたちには「正しく生きる」ことの大切さをしっかり教えていく必要があります。そのためには、企業、行政、政治、そして社会も変わらなければなりません。

社会をより良くするために、当社グループはこれからも社会に存在し続ける必要があります。そのために、社員と心を一つにすることが大切です。時には厳しく接することもありますが、社員には常に愛情をもって接しているつもりです。最近では、GCP（ガバナンス、コンプライアンス、ポートフォリオ）を踏まえることの大切さを説いて回っています。規則を重んじ、健全な判断のもと、事業を通じて私たちができることをしっかり自覚することが大切です。

何よりも大切な「生命を守る」ために、私はこれからも、できる限りのことをします。医療はもちろん、健康な暮らしに欠かせない公園の整備など、人々がより良く生きる（Well-Being）ために、これからも至誠を貫く考えです。

代表取締役会長

古川國久

企業情報

会社概要

名称	シップヘルスケアホールディングス株式会社
本社所在地	〒565-0853 大阪府吹田市春日3-20-8
代表取締役会長	古川 國久
代表取締役社長	大橋 太

設立	1992年8月
資本金	155億5,301万円
従業員数	連結 7,793名（正社員）　16,830名（従業員）（2024年3月31日現在）
売上高	連結6,309億円（2024年3月期）

シップヘルスケアホールディングス株式会社

〒 565-0853 大阪府吹田市春日 3-20-8
TEL 06-6369-0130（代表）　https://shiphd.co.jp/

[2024.9]